

平成 29 年度 第 2 回伊豆市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成 29 年 12 月 1 日（金） 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：伊豆市役所本庁別館 2 階 大会議室

委 員：19 名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市長	菊地 豊	会長
総合政策部長	田村 英樹	副会長
国土交通省中部運輸局静岡運輸支局 首席運輸企画専門官	藪田 丈夫	委員
静岡県交通基盤部都市局 地域交通課長	(代)山崎 友寛	委員
静岡県タクシー協会 賀茂・修善寺副支部長	寺山 冗二	委員
伊豆箱根バス株式会社 常務取締役 管理部長	岩田 晃	委員
株式会社新東海バス 代表取締役	土屋 成人	委員
伊豆箱根鉄道労働組合 書記長	西尾 清明	委員
静岡県沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長	海野 雅之	委員
大仁警察署 交通課長	(代)佐沢 博英	委員
伊豆箱根鉄道株式会社 執行役員 鉄道部長	井村 眞一	委員
株式会社伊豆中央自動車 代表取締役	佐藤 諭	委員
伊豆市区長会長	勝呂 義衛	委員
伊豆市 P T A 連絡協議会長	鈴木 和仁	委員
伊豆市老人クラブ連合会長	鈴木 實	委員
建設部長	山田 博治	委員
健康福祉部長	村井 克代	委員
産業部長	(代)鈴木 利明	委員
教育部長	金刺 重哉	委員
伊豆市副市長	本多 伸治	
建設部都市計画課長	井上 貴宏	
東海自動車株式会社 バス営業部 部付課長	和泉澤 貴治	
伊豆箱根バス株式会社 営業部乗合課 係長	岩崎 勝一	
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	アドバイザー
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主査	飯田 克彦	事務局
総合戦略課 主任	室住 実希	事務局
総合戦略課 主任	下村 亮介	事務局

資料：①次第、②席次表、③委員名簿、④資料 1：次年度運行に係わる協議事項 ⑤参考資料 1：自主運行バス等運営基準について ⑥資料 2：路線図・時刻表 ⑦資料 3：平成 29 年度 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画 推進状況について ⑧資料 4：天城湯ヶ島地区における予約型乗合タクシー実証運行 実施状況報告 ⑨参考資料 2：デマンド交通の運用基準 ⑩資料 5：中伊豆地区における地域公共交通の見直し 検討状況報告 ⑪資料 6：土肥小中一貫校通学バス 検討状況報告 ⑫資料 7：中心拠点整備事業 検討状況報告 ⑬資料 8：伊豆市公共交通総合時刻表作成事業 実施状況報告

1. 開 会

2. 挨拶（市長）

皆さんこんにちは。大変ご多忙の日中に、ご参集賜りましてありがとうございます。

いま伊豆市では平成 28 年 3 月議会に一旦可決された第 2 次総合計画を見直しているところである。ただ、コンパクト&ネットワーク化は避けてとおれない課題であり、引き続きしっかり確保し、むしろ充実をさせて行きたいと考えている。

具体的に昨年度、伊豆市生活交通ネットワーク形成計画が策定されているので、後程その進め方については事務局から説明する。また、市民の足としての地域交通のあり方で来年度路線バスの運行について、伊豆市では実験段階ではあるが初めて導入した予約型乗合タクシーのおでかけ天城の状況についても、着手したばかりだが報告させていただく。

地域公共交通、地域医療、地域の店舗、それぞれ市民が使うことによってしか維持できないので、地域のあり方というものの中で公共交通というのは大切な課題だと考えている。

更に、2年半後に東京オリンピック・パラリンピックがこちらの準備状況にかかわりなく時間がやってくる。その参考になるかわからないが、9月にアジア太平洋ジオパークの会議で初めて中国の今まで聞いたこともない内陸部に行った。噂通りの中国と、はるかに日本より進んでいる中国と混在していた。やりかたは日本人と少し違うところはあるが、おもてなしをしようという意思を明明白白に感じた。朝、寝坊して会場に行くバスに乗り遅れた日本人を、日本語も英語も通じないので誰かわからないが、このバスやあのタクシー乗れ、何処どこに行け、乗り遅れたのだから料金は払わなくていいなど、州から伝達があったのか会議参加者には徹底的におもてなしをするといった様子だった。それから、今中国は基本的に現金を使わない。日本のように信頼された貨幣や自宅の電話がないので、いきなりスマートフォンにデータが入る。また、ホテルで冷蔵庫を使いたかったが、従業員に言葉が全然通じなかった。先程の方が来たのでこの冷蔵庫を使いたいと日本語で言うと、ホテルの従業員に中国語で伝えてくれ、これは冷蔵庫じゃなくて金庫だとの話だった。このようなことが中国内陸部の知らないような町ですで行われていて、我々は2年半後に自分が習得していない外国語を話すお客様にどうやって対応するか、という現実的な問題にすでに直面している。直近の課題として市民の足は足としてしっかり考えていただきながら、かつ将来の課題としてこのようなこともいずれ議論させていただきたい。

まずは本日、計画に基づく事業の進捗と、来年度の運行についてご審議を賜りたい。よろしく申し上げます。

<会議の成立報告・議事録の公開>

3. 議事

議事内容

(1) 次年度運行に係わる協議事項について

資料 1・資料 2 について事務局より説明。

路線の状況について伊豆箱根バス(株)、東海自動車(株)より補足説明。

【質疑応答】

委員：自主運行バスの時刻表で勤など注意書きがあるが、これはどのような意味か。

事務局：運行日数を示している。

委員：修善寺～伊東線は網形成計画にも記載されているように幹線路線と認識をしており、本来は観光でも使われるべきと考えているが、現状は通勤と通学と考えている。市として観光利用としての促進としてどのようなことを考えているか。

事務局：今年度、国の交付金を活用し、総合時刻表の作成を行っている。その中で周遊

などどのように利用できるか周知し、利用促進を考えていきたい。

会 長：別途実施している調査では、自動車利用者は伊東市と伊豆市の周遊を行っているが、公共交通を利用している方は、伊東市と伊豆市を一緒に回るとはなかなか見られないことがわかっている。

委 員：自主運行バスについて、数年来同様の資料を見ているが、改善されているか疑問である。また、中伊豆温泉病院線については、送迎バスもあるので、利用されるか疑問である。また、スクールバスとかの比較について、運輸支局の HP に計算式があるので、参考にしていきたい。

事務局：自主運行バスについては、ご指摘の通り、いくらでも補助するという考えではない。朝夕の通勤や通学で利用されている面もあるので、そこは支えつつ、実際に利用される地域の方と共に検討していく基準を作りながら検討して行きたいと考えている。

委 員：入屋線は、以前はニューライフまで通っていたが、現在は運行していない。学校への通学も不便となっているが、どのように考えているか。

事務局：入屋線は路線見直しの際に、地元との協議を踏まえて行ったと認識している。

委 員：当面の見直しは考えていないということか。

会 長：ニューライフは市内でこの地区だけ、小学校までバスを乗り継いでいく必要があり、課題とは認識しながら、ここ数年解決できずにいる。一方、この地区は修善寺駅に行ってしまったほうが楽であるが、そうなると中伊豆小学校の 2 クラスの維持の問題にもかかわってくる。改めて検討していきたい。

【協議結果】 原案どおり承認

(2) 平成 29 年度伊豆地域生活交通ネットワーク形成計画の推進状況について

資料 3～8 について事務局より説明。

【質疑応答】

■天城湯ヶ島地区での実証運行について

委 員：ふれあいサロンと老人クラブでは、集まる方の層が違っており、老人クラブ等でも周知をお願いしたい。

事務局：11 月初めに田沢地区のサロンに参加し、登録は行ってもらっている。その他の集まりについても、ぜひ伺いたいので、地域からも情報提供をいただけるとありがたい。

委 員：現在利用されているのは、電話で登録をした方になっている。サロン等で周知した際は非常に感触が良いが、なかなか利用していただけない。時間帯が合わない、修善寺駅に行つてほしい、自宅まで来てほしいなど要望はあるが、頑張っていきたいので、利用していただきたい。

トバザン：登録をしていただくだけでなく、利用してもらうことが必要である。すごく便利とは言えないかもしれないがうまく生活に取り入れていただきたい。全体の中では 11 月の稼働率は悪くないので、お誘いあわせのうえご利用いただくよう、引き続き利用増を図れるよう取り組んでいただきたい。

■中伊豆地区における地域交通の見直しについて

委員：昨年度策定した計画では、中伊豆地区全域でフィーダー化での検討という認識であったが、本日の資料では、筏場地区は既存路線の活用となっている。これは検討過程で方向性が変わったのか。

事務局：ご指摘の通り、昨年度の計画策定時点では地区全体でのフィーダー化を考えていた。しかし今年度、地区での検討を行っていくに当たっては、2段階で話をさせていただきたいと判断し、まずは限定したエリアでの実証運行を検討しその状況を把握しながら、現在路線バスが充実している部分については利用促進を行いながら、長期的に検討して行きたいと考えている。

委員：承知した。ただし、筏場線はご存じのように、毎年の欠損額が大きく、事業者の持ち出しもあるため、維持も難しいことはご理解いただきたい。

■修善寺駅での内照式吊看板の設置について

委員：修善寺駅の吊り看板については、三島駅との表記の整合も併せて検討したいので、相談させていただきたい。

事務局：承知した。ぜひ意見交換しながら進めさせていただきたい。

■伊豆市公共交通総合時刻表の作成について

委員：作成スケジュールでは3月までに作成となっているが、JRのダイヤ改正が3月上旬に行われると思われる。これについてどのように対応予定か。

事務局：本年度はレイアウトやデザインの検討が主であり、印刷等は次年度以降を予定している。ダイヤ改正についてはスケジュールの中で反映していきたい。

トバゲ-：総合時刻表については、誰に利用してもらうのか、を考えておくことが必要である。全てを網羅した時刻表ではあるが、観光客が使うのか、市民が使うのかなど、考えておく必要がある。

事務局：観光ももちろんではあるが、まずは地域住民に利用してもらいたいと考えている。

4. その他

○事務局よりその他連絡事項、次回会議の日程等について説明。

事務局：本年度はあと1回の会議の開催を予定している。開催時期については、決まり次第ご連絡させていただく。

5. 閉会（16時00分）